



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

和歌山県 田辺市立本宮中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和6年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
 オリンピアン自身の様々な経験を通して
 「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
 この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、
 日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピアンはJOCが選定
- 期間： 2024年4月～2025年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
 チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
 ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
 オリンピックの価値を生徒に伝え、
 オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。

※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上の調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：阿部 雅司 先生（スキー／ノルディック複合）

【出場オリンピック／カルガリー1988冬季大会、アルベールビル1992冬季大会、リレハンメル1994冬季大会】

■期 日：2024年10月1日(火)

■ク ラ ス：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・スキージャンプとクロスカントリースキーを組み合わせたスキー／ノルディック複合競技でオリンピック3大会に出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて説明した後、運動の時間では3つの価値を意識しながら取り組んでほしいと伝え、準備体操の後、体を使った後出しじゃんけん(グー：しゃがむ、チョキ：足を前後にして両手を挙げる、パー：両手足を横に広げる)を実施。先生の動きの後、指示通りにじゃんけんの体勢になれるかに挑戦した。

○主運動等



・主運動は「そりリレー」を実施(全3回)。2人組になり、1人がマットの上にしゃがんで輪状のロープを持つ。もう1人はロープを引っ張りながら走る。スタート地点から20m程離れたコーンまで走り、座る人と走る人を交替してスタート地点まで戻る。2班に分かれ、リレー形式でチーム全員が走り終えるまでのタイムを競う。練習と作戦タイムを設け、ロープの持ち方や交替の方法等、前回の記録を更新できるように作戦を立てながら実施した。



・運動の時間を振り返り、工夫しながら取り組んだことでタイムが縮められた。一生懸命頑張り、目標を達成するために考えることはエクセレンス、それに乗った相手のことを気に掛けて走ったことはフレンドシップ、ルールを守ってフェアプレーを心掛けたことや周りへの感謝はリスペクトである。どんなスポーツでも全力で取り組むことでオリンピックバリューを学ぶことができる。座学の時間では自分の経験を通して学んだことを話したいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：阿部 雅司 先生 (スキー／ノルディック複合)

【出場オリンピック／カルガリー1988冬季大会、アルベールビル1992冬季大会、リレハンメル1994冬季大会】

■ **期 日**：2024年10月1日(火)

■ **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・映像を見ながら自己紹介し、小学生の頃にスキージャンプを始め、中学生でノルディック複合に転向した。高校では結果を出せずに悩んでいたが、恩師が働きながら練習もできる就職先を探してくれたことで競技を続けられた。オリンピックで補欠になり、悔しさから引退も考えたが、支えてくれた多くの方のためにも、もう一度頑張ろうと決意した。競技を通して素晴らしい仲間と出会い、苦しい時期は仲間や家族に支えられたお陰でリレハンメル1994冬季大会では金メダルを獲得することができた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間で工夫したことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

発表：エクセレンス：「最後まで頑張った」「差がついても諦めなかった」「皆と考えて工夫した」等

フレンドシップ：「次の人が乗りやすくした」「相手のことを考えて落とさずに頑張った」「声掛けをした」等

リスペクト：「ルールを守れた」「改善点等を話し合った」「堂々と戦った」「教えてくれた人に感謝」等



・座学の時間を振り返り、グループワークで皆が発表したことには正解も不正解もなく、運動の時間で色々なことを吸収し、感じ取ってくれたことが嬉しい。これから多くの経験をしていく中で、苦勞することや失敗することもあると思うが、どんな結果になったかよりも、目標を持って頑張ることが大事なので、周りへの感謝を忘れずに頑張ってほしい。失敗するのは挑戦したからであり、挑戦しなければ成功することもない。何かに迷った時は今日の授業を思い出してほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



■記念品贈呈

・2年1組



■修了証贈呈

